

『論語』を通して心を育む

論語塾講師 安岡 定子



私は論語塾の講師をしています。『論語』という
と学生時代の漢文の授業を思い浮かべる方も多いと
思います。古くて堅苦しい、漢文なので難しい、ちっ
とも面白くなかった。こんな感想をよく聞きます。
確かに中国の古典なので馴染みがないかもしれませ
んね。でも「温故知新」という四字熟語や「一を聞
いて以って十を知る」という慣用表現も『論語』が
由来です。また、三省堂書店や有隣堂という書店名
も『論語』が出典です。古来、日本人の傍らにあっ
て、親しまれてきた書物です。

「性、相近し。習い、相遠し」という言葉が『論
語』にあります。生まれた時は皆同じ。よい資質を
たくさん身に着けて生まれてきます。でも残念なこ
とに、大人になった時に人を騙し、傷つけても平気
な人がいます。皆よき人で生まれてきたはずなのに、
どこで差がついてしまったのでしょうか。孔子は、そ
れはよい習慣を身に着けているかいないかの差によ
る、と言っています。もちろん学ぶことも大事です
が、優秀であればどんな生き方をしてもいいという
訳ではありませんね。よい習慣は、人間関係をスム
ーズにしてくれます。また自分自身の生活も整うこ
とになります。心が整えば意欲的になれる。

よい習慣と言えば、挨拶がその最も身近なもので
しょう。「おはようございます」「いただきます」「いっ
てきます」等々、私たちはたくさんの挨拶の言葉を
交わしながら生きています。たとえば、「おはよう
ございますって言ったのに、相手が挨拶を返してく
れなかったら、どんな気持ちになりますか」と、子
どもたちに質問してみます。すると返ってくる答え
は、ほぼ皆同じです。「いやな感じ」「悲しい」「変

な人」中には「かわいそう」という言葉もありました。
確かにその通りですね。挨拶を交わせない人とは親
しくなれないし、よい感情は持てないですね。どん
なに優れた能力があっても、素晴らしい知識があっ
ても、共鳴し合い、助け合うことはできません。孔
子は人の心を察して、誠実であることを常に大事に
しています。そのような姿勢は、是非見習いたいで
すね。

よい習慣には二通りあるように思います。ひとつ
は今触れた挨拶のように、自然に身に着いていくも
のです。もうひとつは、自分が意識して努力をしな
いと身に着かない習慣です。たとえばわからない言
葉に出会った時にはどうしますか。まず調べて解決
することが大事ですね。後で調べようと思っても実
際にはそのままになってしまうことが多いのではな
いでしょうか。たとえば一日ひとつの疑問があった
とします。その日のうちにそのひとつを解決してお
く。たったひとつなら、丁寧に調べられます。調べ
たことにより新しい発見や知識を得ることができま
す。一方、毎日生じる疑問やわからないことを一週
間溜めてしまったとします。日曜日に7つのこと
をまとめて解決しようとする大変ですね。長時間
の集中力を保つのも難しくなります。ひとつにかけ
る時間も短くなり丁寧さも失われます。ちょっとした
心がけで、何年か後には大きな差を生むことにな
ります。習慣化するためには少しの努力が必要で
すが、一度身に着けたよい習慣は一生の宝です。豊
かな人生の礎と言えます。

お子さんたちにより習慣が身に着くように導いて
あげたいですね。先人の言葉は、私たち大人にも自
信を持たせてくれます。